

## 仲間を思いやり、日々の陽気ぐらしを実践しよう！

### 一、教理勉強をしよう

○おふでさき、みかぐらうたに親しもう

○教祖のひながたを学ぼう

### 一、思いやりの連鎖を起そう

○心を配ろう

○おつとめをしよう

## 仲間を思いやり、日々の陽気ぐらしを実践しよう！

陽気ぐらしとは人間生活の目標であり、心を澄みきり互いにたすけ合うことを言います。陽気ぐらしをするには、日々心のほこりを払うことと、思いやりの心を持って仲間とたすけ合うことが大切です。私たち人間の心の使い方を振り返る基準となるものが親神様の思召であり、教祖の教えです。教祖を通して教えてくださった親神様の思召を学び、自分の心の使い方と照らし合わせて心のほこりを払いましょう。また、日々を通る中で、思いやりのある行動を実践する機会はたくさんあります。どんなことをしたら相手のためになるかを考え、仲間思いやりの心をかけていきましょう。困っていたり悩んでいる仲間はもちろんのこと、周りにいる仲間と思いやりの心をかけ合いたすけ合って、日々の陽気ぐらしを共に実践していきましょう。

### 一、教理勉強をしよう

親神様が望まれている陽気ぐらし世界に近づくために、みんなで教理勉強をしていきましょう。学生会活動をする上で大切にしなければいけないのは天理教の教えであります。ですから、私たちが教理勉強をすることは欠かせないことです。教理勉強をすることで、お道の素晴らしさを感じ、仲間同士で伝え合っていきましょう。そして、日々を通る中で教えを実践し、親神様、教祖に喜んでいただける心の使い方を心がけましょう。

### ○おふでさき、みかぐらうたに親しもう

「立教百八十年 春の学生おぢばがえり」式典で真柱様は「教理を身近に、しかも、間違いなく学び取るためのものに原典があります。」とお話してくださいました。さらに、その中でもおふでさき、みかぐらうたは信仰年限の浅い人や若者や子供にも比較的親しみやすいとお話してくださいました。今はまだ書かれている意味が分からなくても、ふとした時にどれか一首でも思い出すことができれば、それを手掛かりとして教えにのっとった考え方を学んでいくことができます。そのために教会に足を運んだり、活動の中で時間を設けたりして、率先しておふでさき、みかぐらうたに親しむ機会をつくりましょう。そして、親しむ中で感じたことや学んだことを仲間と共有し、理解を深めていきましょう。

### ○教祖のひながたを学ぼう

私たちは親神様から身体を貸していただき、心の自由を与えていただいています。親神様の思召にかなう心の使い方をするために、そのお手本となる教祖のひながたを学びましょう。そのために『稿本天理教教祖傳』や『稿本天理教教祖伝逸話篇』を読んだり、道の先輩の話を聞いたりして教祖のひながたを学びましょう。そして教祖の教えを基準にして自分の心の使い方を振り返り、親神様、教祖に喜んでいただける心の使い方です。毎日を通れるようにしましょう。

### 一、思いやりの連鎖を起そう

日々の陽気ぐらしを実践していくために、仲間と思いやりの心を連鎖させていきましょう。そのために、思いやりの心を受けた人は、同じように誰かに思いをかけ、身の回りから思いやりの心を連鎖させていきましょう。身近に行える陽気ぐらしを身の回りから全国へ、そして世界へと広げ、親神様が望まれている陽気ぐらし世界に少しでも近づいていきましょう。

### ○心を配ろう

思いやりのある行動をするために、周りの人たちに心を配りましょう。心を配るには、些細な声かけや気配りなどが大切です。毎日を通る中で、相手の立場にたつて物事を考え、自分にできる思いやりのある行動を心がけましょう。

### ○おつとめをしよう

教祖は世界たすけの手段として、私たちにおつとめを教えてくださいました。おつとめで人は必ずたすかります。周りに困っている人や悩んでいる人がいたら、その人のたすかりを願っておつとめをさせていきましょう。また、おつとめは心のほこりを払う手立てでもあります。朝夕のおつとめなど、日頃から教会に参拝に行き、生かされていることに感謝して、自分の心のほこりを払いましょう。